

平成29年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション

食物アレルギーと食の安全安心 を考えるシンポジウム

開催結果概要

H30.1.12 県民くらしの安全課

1 開催概要

目的	食物アレルギーのこどもが年々増えている中、発症の仕組や予防、対処法の知識やアレルギーへの理解が重要となっています。そのため、県では、保護者や学校など関係者を対象にシンポジウムを開催するものです。																		
日時・会場	平成30年1月12日(金) 13:30～16:00 プラザおでって「おでってホール」																		
参加者	約160名																		
内容	<p>◆基調講演「食物アレルギー ～正しい知識があれば食物アレルギーは怖くない～」 もりおかこども病院小児科医長 佐々木 朋子 氏</p> <p>◆パネルディスカッション「食物アレルギーについて意見交換」</p> <table><tr><td>☆コーディネーター</td><td>岩手県環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心課長</td><td>高橋 孝嗣</td></tr><tr><td>☆パネリスト</td><td>消費者代表 盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」代表</td><td>山内 美枝 氏</td></tr><tr><td></td><td>学校代表 岩手県学校栄養士協議会 会長</td><td>大石 祥子 氏</td></tr><tr><td></td><td>事業者代表 株式会社兼平製麺所 業務課 係長</td><td>中村 宏伸 氏</td></tr><tr><td></td><td>行政代表 県民くらしの安全課 主査</td><td>加藤 織恵</td></tr><tr><td>☆アドバイザー</td><td>もりおかこども病院小児科医長</td><td>佐々木 朋子 氏</td></tr></table> <p>◆意見交換・質疑</p>	☆コーディネーター	岩手県環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心課長	高橋 孝嗣	☆パネリスト	消費者代表 盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」代表	山内 美枝 氏		学校代表 岩手県学校栄養士協議会 会長	大石 祥子 氏		事業者代表 株式会社兼平製麺所 業務課 係長	中村 宏伸 氏		行政代表 県民くらしの安全課 主査	加藤 織恵	☆アドバイザー	もりおかこども病院小児科医長	佐々木 朋子 氏
☆コーディネーター	岩手県環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心課長	高橋 孝嗣																	
☆パネリスト	消費者代表 盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」代表	山内 美枝 氏																	
	学校代表 岩手県学校栄養士協議会 会長	大石 祥子 氏																	
	事業者代表 株式会社兼平製麺所 業務課 係長	中村 宏伸 氏																	
	行政代表 県民くらしの安全課 主査	加藤 織恵																	
☆アドバイザー	もりおかこども病院小児科医長	佐々木 朋子 氏																	

2 基調講演

「食物アレルギー ～正しい知識があれば食物アレルギーは怖くない～」

講師 もりおかこども病院小児科医長 佐々木 朋子 氏

内容 食物アレルギーの発症の仕組みや食物負荷試験、薬の種類、アナフィラキシー、対処法などを解説いただきました。



3 パネルディスカッション

「食物アレルギーについての意見交換」

アレルギーの子供を持つ親の会の取組や、事業者の取組、学校の取組、県の取組などについて発表いただき、意見交換を行いました。

- | | | |
|-----------|----------------------------|----------|
| ☆コーディネーター | 岩手県環境生活部県民くらしの安全課食の安全安心課長 | 高橋 孝嗣 |
| ☆パネリスト | 消費者代表 盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」代表 | 山内 美枝 氏 |
| | 学校代表 岩手県学校栄養士協議会 会長 | 大石 祥子 氏 |
| | 事業者代表 株式会社兼平製麺所 業務課 係長 | 中村 宏伸 氏 |
| | 行政代表 県民くらしの安全課 主査 | 加藤 織恵 |
| ☆アドバイザー | もりおかこども病院小児科医長 | 佐々木 朋子 氏 |



◆質疑・意見交換①

参加者から事前に寄せられた質問に対し、講師に解説していただきました。

1 アレルギー児特に乳児に対してある程度の時期完全除去が必要か？

→ 除去時期の定義はありませんので、個々の状態をみて摂取をすすめるかどうか判断しています。

2 書籍、情報によっては口から摂取をしながら抗体をつけるとありますが…。一定期間除去することで、体内の成長した方が良くないなど、どちらを信用すればよいか？

→ 一定期間の除去が食物アレルギーの耐性獲得に有用ということはない。ただし安全性を優先するため一定期間の除去が必要ということはある。

3 食物アレルギーの予防方法と対処法

→ 現在、予防方法については積極的で実用的な方法が確立されていない。対処方法はスライド通り

◆質疑・意見交換②

4 乳児に与える果物について加熱が必要かどうか？

→ 必ずしも加熱を必要としないが、加熱した方が嚥下しやすく消化もいい。タンパク質によっては、変性するものもあるのでアレルギーの数が減る。

果物アレルギーが心配であればprick testを行ってから食べる方が安心です。

5 県外で急速経口免疫療法を行ったが、県内で緊急時の対応のみを行っている。普段から相談できる病院を知りたい。

→当院ではダメでしょうか？もしくは岩手医大附属病院では？

6 スギ花粉、イネ花粉の治療について

→スギは、舌下免疫療法、皮下免疫療法

◆質疑・意見交換③

7 離乳食開始時期に注意すること。初めて口にするときの食べさせ方について

- 生後5～6ヶ月から開始しアレルギーの観点から蛋白濃度が低いものを少量から。小麦であればうどん、牛乳であれば乳入りのパン、鶏卵であればかたゆで卵黄から開始するのがいいのでは？
ただし安全量（閾値）は経口負荷試験を行わないとわからない。

8 IgEが完全除去しているにも関わらずあがってくるのは？

- IgEは年齢とともにあがる。IgEの個人の変動は特異的IgEが下がり続けられているようであれば耐性獲得過程とみることも。

9 完全除去中の乳幼児の食後の対応について教えてほしい

- 抗原が肌に触れると症状がでることもある。
食後はアレルギー児、非アレルギー児も口や手ふきがよい。
保護者に施設で出来る範囲を話して対応してください。

◆質疑・意見交換④

10 生後2ヶ月からの早めに鶏卵摂取する方がアレルギーになりにくい？
今後アレルギーに関する指針を改訂する動きは？

→ 世界的には生後3ヶ月からの臨床研究はあるが、発症予防に有用とはされていない。医学は日進月歩なので改訂されることは予想される。
また、各県アレルギーの拠点病院をつくる流れにある。

【以下、事後に寄せられた質問】

11 エピペン処方に適した体重になる前の子がアナフィラキシーショックを起こす場合、処方される薬は何ですか。

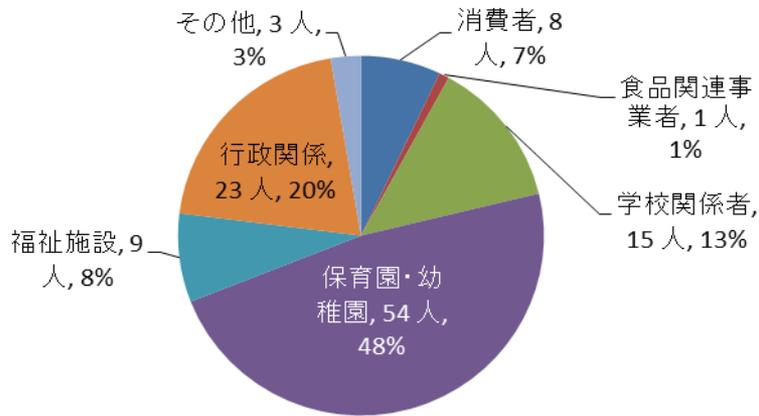
→ アナフィラキシーにすぐ効く薬はエピネフリンだけです。
エピペン適応外の方はすぐ病院に受診してください。
アナフィラキシーであれば進行が早いので救急搬送も考慮してください。

12 負荷試験は病院で入院検査の方がいいですか。

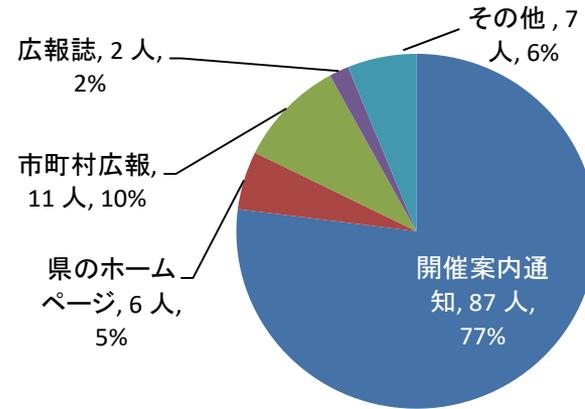
→ 外来、入院いずれも病院でできます。各施設に問い合わせてください。
ちなみに当院では観察を十分に行いたいため、基本的に日帰り入院で経口負荷試験を行っています。

アンケート結果

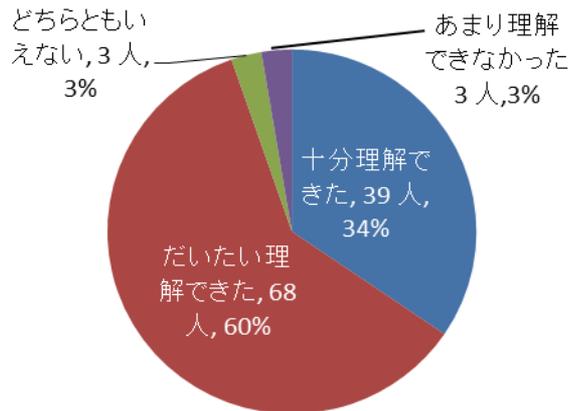
回答者の属性



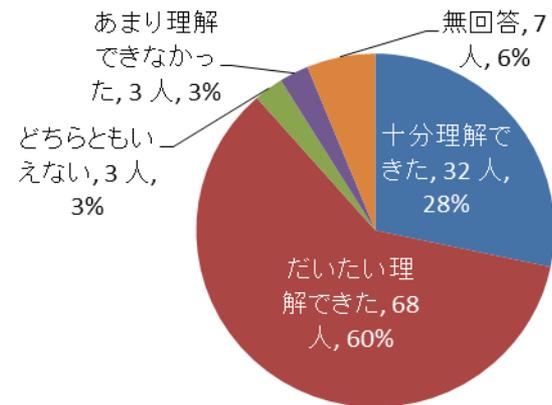
開催を知ったきっかけ



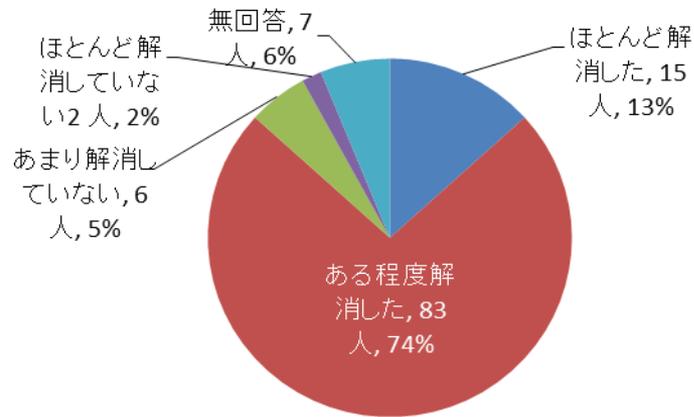
基調講演の内容



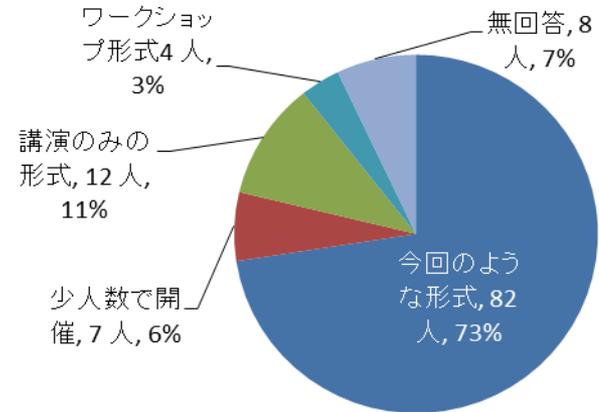
パネルディスカッションの内容



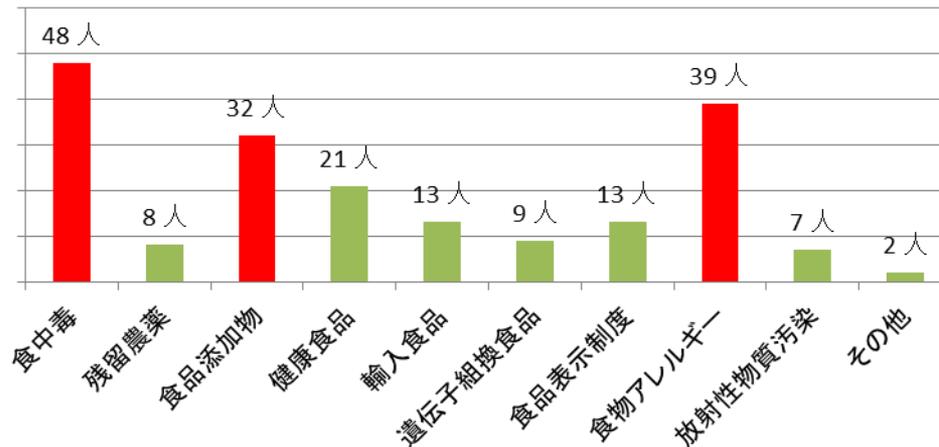
疑問の解消



今後の開催方法



今後取り上げてほしい話題



シンポジウム開催後の参加者からの主なご意見

- ◆ 毎日のように食品の安全性に関することが、TV等で取りあげられています。このような研修会を毎年、行っていただきたいです。
- ◆ パネリストの方や、佐々木先生の貴重な話が聞く事ができ、良かったです。ありがとうございました。
- ◆ とても聞きたい講演だったので良かった。こども病院にとっても関心があったので。学校での対応などもっと詳しく聞きたいと思った。食事も小学校との連携は大切だと感じた。
- ◆ 小麦アレルギー用の米粉麺があることが知れて良かった。アレルギーっ子サークルをアレルギー児の保護者に教えてあげたいと思います。
- ◆ 給食関係だけでなく、事業者や行政など各方面からアレルギーについての情報を知る事ができて良かった。今まで行ったことのある研修で一番分かり易くためになった。
- ◆ 今回の様な現場で活動されている先生の講演はとても良かった。本当にありがとうございました。
- ◆ それぞれの立場でいろいろな工夫、配慮、対応していることが分かった。この事を広く様々な人に知ってもらえればと思う。
- ◆ 今回の内容は仕事(栄養士)としてだけでなく、他専門の方との意見も聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。